

安房運輸、クラウド型の運送業システムを本稼働

安房運輸株式会社(本社:千葉県君津市、代表取締役社長 石川 夕伎夫)は、中西商会株式会社(本社:千葉県船橋市、代表取締役社長:中西 祐介)が開発したクラウド型の運送業システム「DriveDoor(ドライブドア)」を6月1日より本稼働します。

「DriveDoor」は、受注から配車指示と実績管理に加え、請求・支払い処理など運送業に関わる業務を総合的に管理するシステムです。クラウドシステムでありながら、事業規模や内容に合わせたカスタマイズが可能なことや、豊富なテンプレートがあることにより、事業者の幅広いニーズに対応できます。

安房運輸は、2019年の台風15号および19号の被害を受けたことをきっかけに、非常時でも事業継続可能なシステムへの移行を検討し、本システムの導入を決めました。今後はIoTやAI連携によるサービス向上や、これまで運送業で困難であった在宅勤務の実施など、さらなる全体最適化を目指します。

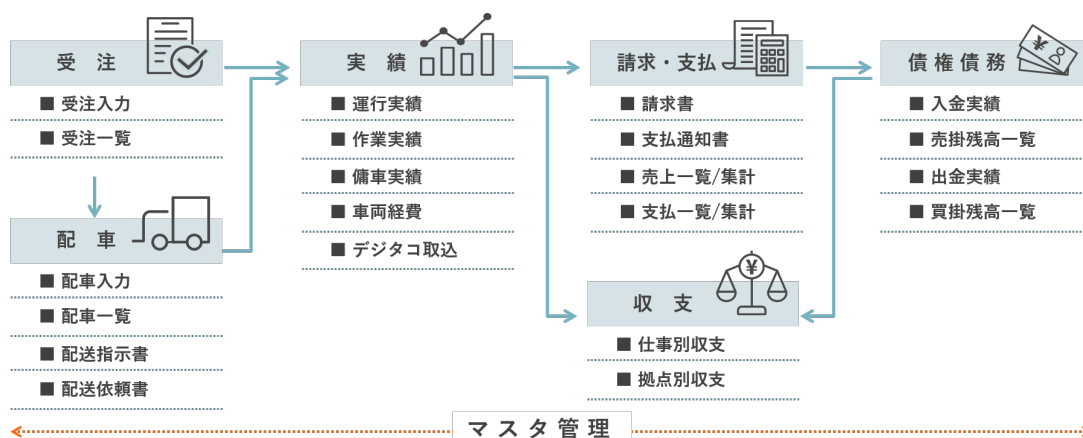
【背景】

安房運輸は1943年に輸送機関として創業して、その後、地場製品の輸送や大手提携による幹線輸送やECサイトのB to C輸送など事業の幅を広げ、現在ではグループ全体で640台を超える車両を保有する運送事業者です。事業拡大に伴い早くからICTを取り入れ、業務のシステム化を実現したものの、近年の地震や2019年の台風15号および19号などの自然災害により、基幹システムの運用が事業継続のリスクに直面するのを目の当たりにし、昨年より全システムのクラウド化を検討してきました。しかし、一般的なクラウドシステムでは、安房運輸は幅広く運送事業を展開しているため、機能が満たさず、従来の個別開発ではコストが高くなる課題がでましたが、これらを解決できる「DriveDoor」の採用を決めました。

【DriveDoorの特徴】

「DriveDoor」は、運送業務における事務作業を包括的にサポートするシステムです。受注、配車、運行指示といった計画系の業務から、配送実績管理、実績に基づいた請求支払、および債権債務の管理、さらにそれらの情報をリアルタイムで集計、確認できる収支管理の機能で構成されています。これらすべての業務がインターネット環境さえあれば全て利用できるという、クラウドシステムです。

また、多様化する物流業務に対応する豊富なテンプレートと外部システムとのインターフェースを実装することで、運輸業務の効率化、最適化を実現させます。



【安房運輸におけるシステム導入展開】

安房運輸では、株式会社富士通マーケティング(本社:東京都港区、代表取締役社長 広瀬 敏男)の提案により、新しいシステムの導入を3ステップにわけて展開する予定です。併せて、新型コロナウイルス感染症対策を受け、業務の手順や環境を整備することで、業務担当者の在宅勤務も推進していきます。

1. 第一ステップ: 運送業向けクラウドシステム「DriveDoor」導入によるルーチン業務効率化

日々の物流を掌る非常に重要な業務となる荷主様からの依頼(受注)と、ドライバーや車両の作業(稼働)実績のエントリ業務を行う「DriveDoor」を導入。入力業務はスマートクライアント設計により集中的な伝票エントリ業務でもレスポンス低下を軽減します。

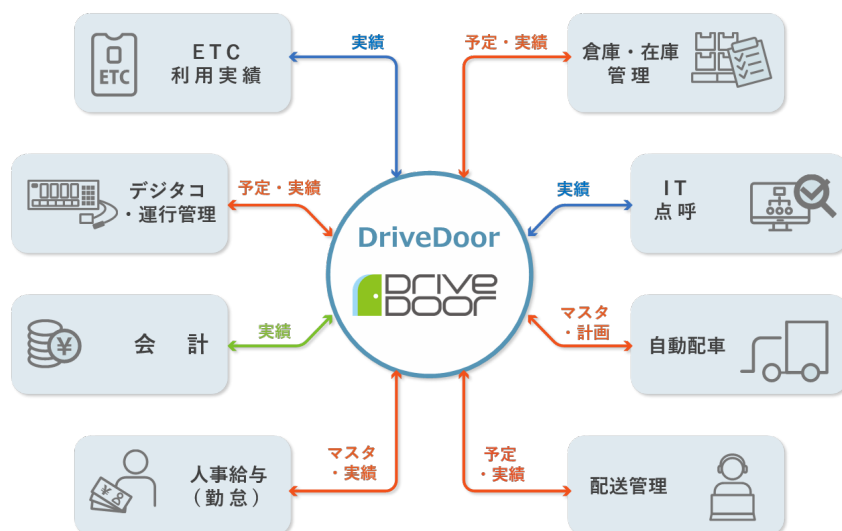
2. 第二ステップ: IoTによる現場業務の最適化

自動配車システムとの連携により最適配車を実施。配車情報を現場ドライバー端末(タブレット)へ伝達し、タイムリーな作業情報と紐づけます。またリアルタイムな運行データ(デジタコ、ドラレコ)と連携することで、生産性とコンプライアンスを考慮した全体最適化を実現します。

3. 第三ステップ: 会計・給与システム連携による日次決算の実現

「第二ステップ」と並行し、会計・給与システムと連携することで、「ヒト・モノ・カネ」の情報を早期に把握。将来的にはAIによる波動分析を実施し、経営判断の迅速化を実現させます。

【DriveDoor と連携した全体構想】



【関連リンク】

【商標について】

記載されている製品名などの固有名称は、各社の商標または登録商標です。

以上

《お問い合わせ先》

中西商会株式会社

電話: 047-401-2276

受付時間: 9時～17時

安房運輸株式会社

電話: 0439-70-1771

受付時間: 9時～17時